

股関節回旋可動域の非対称性と片脚立位能力との関連

韓 憲受¹⁾, 久保 晃¹⁾, 丸山 仁司²⁾

国際医療福祉大学 保健医療学部 理学療法学科
国際医療福祉大学大学院 副大学院長

[背景]

- ・高齢者の視力低下は転倒恐怖感や生活能力の低下に関連。
→転倒要因の一つとして考えられ, ADLの低下にも影響.
- ・高齢者 視覚情報減少→片脚起立能力低下→転倒要因
股関節の回旋可動域と回旋筋力との関連が報告.
- ・健常若年者の視覚情報の有無
→片脚起立時間と股関節内旋可動域の左右差パターンと関係究明
→高齢者の視覚機能低下者の転倒可能性予測や関連研究の基礎資料

[目的]

若年健常者における股関節内旋可動域の非対称性パターンと片脚立位時間との関連の究明

[対象] 本学の理学療法学科学生101名

表1.対象者の基本属性

	年齢	身長 (cm)	体重(kg)
男性 (n=54)	19.2±0.5	171.8±6.2	66.0±11.0
女性 (n=47)	19.8±3.4	158.8±4.8	53.2±5.5

[方法]

・股関節内旋 関節可動域

- ・3回測定 (ランダム)
- ・左右差
- ・パターン分類(表2)
左>右, 左=右, 左<右

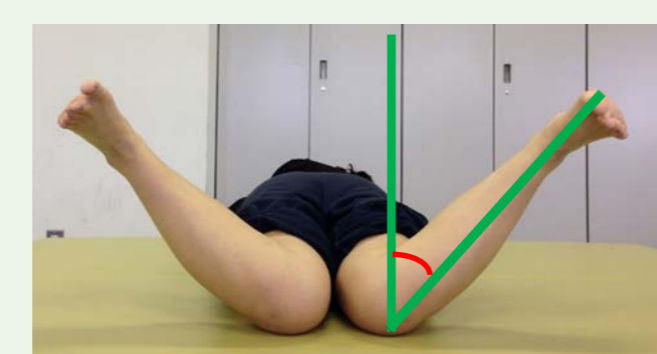


図1. 腹臥位での股関節内旋

・片脚立位時間

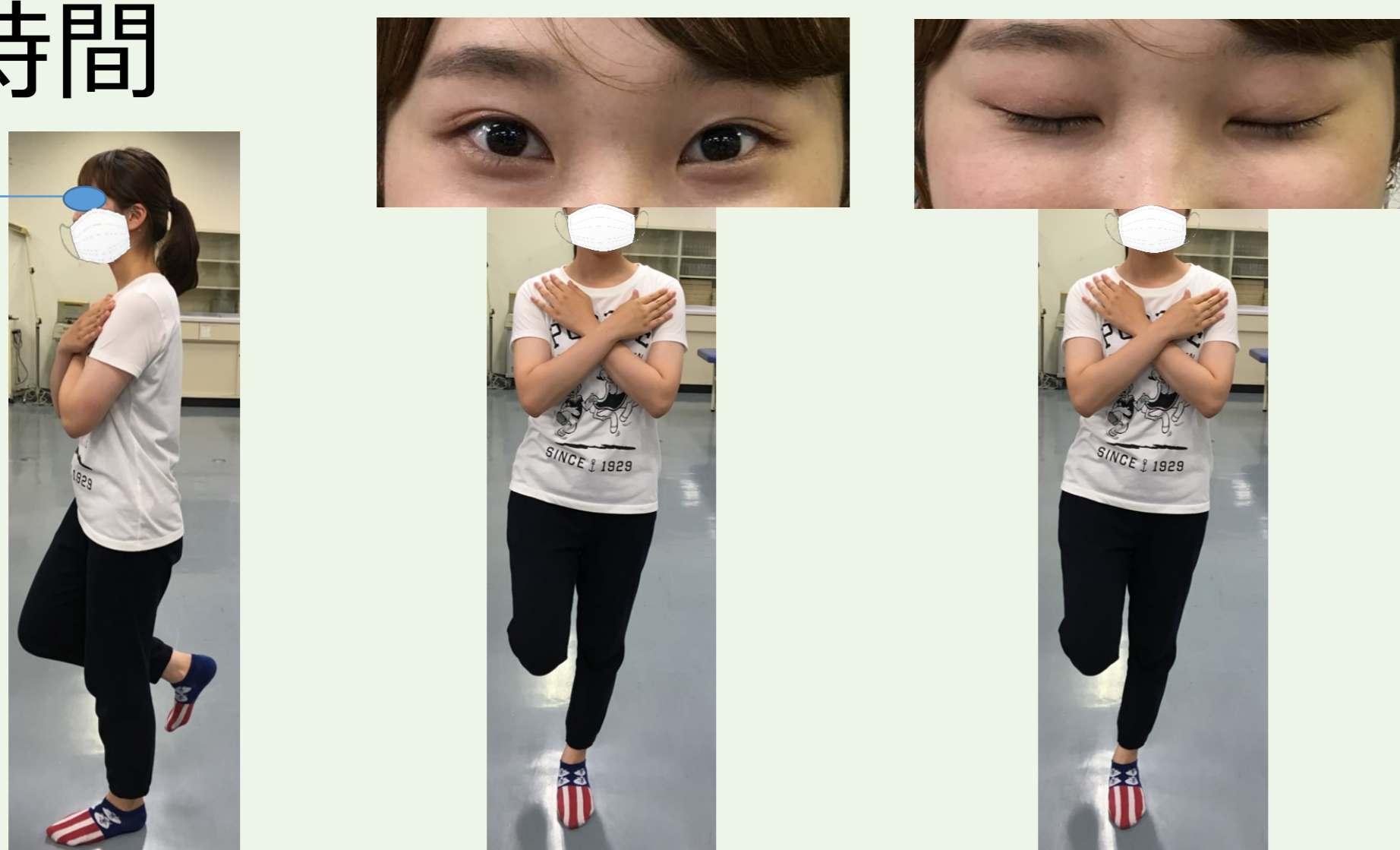


図2. 片脚立位時間測定

左右それぞれ実施, 上限: 2分

パターン 分類(表2) 左>右, 左=右, 左<右

- ・片脚立位時間は開眼閉眼の両方
 - ・股関節内旋パターン
- 組み合わせ: 9つのパターン

・片脚立位パターン
該当人数集計

→開眼時から閉眼時への片脚立位パターンの変化

[結果]

・股関節内旋の 関節可動域

左>右:6%

左=右:86.1%,

左<右:7.9%

表2.視覚情報有無による股関節内旋ROMと片脚立位組み合わせパターンの相違(%)

股関節内旋ROMパターン	片脚立位時間パターン	開眼	閉眼
左>右	左>右	2	5.9
左>右	左=右	4	0
左>右	左<右	0	0
左=右	左>右	19.8	40.6
左=右	左=右	49.5	6.9
左=右	左<右	16.8	38.6
左<右	左>右	1	2
左<右	左=右	5.9	1
左<右	左<右	1	5
合計		100.0	100.0

[考察]

・股関節内旋可動域の左=右パターン

→片脚立位時間のパターンが開眼では同一

→閉眼で左右差が顕著に現れた

左側か右側が長いパターンに分かれる傾向。

・股関節内旋の左>右パターンでは片脚立位時間のパターンが開眼により全員左>右パターンとなった。

・股関節内旋の右>左パターンでは片脚立位時間のパターンが開眼により右>左パターンの人数が増加した。

[結論]

・股関節回旋可動域の左右の非対称性は片脚立位時間においてパターン化している可能性が示唆された。



International University of Health and Welfare



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE
日本学術振興会

22nd International Meeting of Physical Therapy Science in Korea., Eulji University, 2017.7.15にて発表

第7回国際医療福祉大学学会.2017年8月27日